

(シバヤギ)

雄

単位 ; kg、cm

項目 / 月齡	6カ月	12カ月	18カ月*	24カ月
体 重	14. 5	23. 0	29. 3	30. 0
体 高	42. 6	46. 9	51. 6	54. 8
体 長	50. 4	59. 3	63. 3	64. 1
胸 囲	52. 9	64. 7	70. 9	70. 3

*平成12年度は該当頭数が1頭のため、平成11年度(17頭)の数値とした。

雌

単位 ; kg、cm

項目 / 月齡	6カ月	12カ月	18カ月	24カ月
体 重	12. 4	16. 0	19. 3	29. 2
体 高	41. 8	48. 1	47. 6	54. 1
体 長	48. 2	52. 4	58. 1	62. 2
胸 囲	50. 3	55. 6	60. 8	66. 8

3 搾 乳

(1) 搾乳山羊の管理

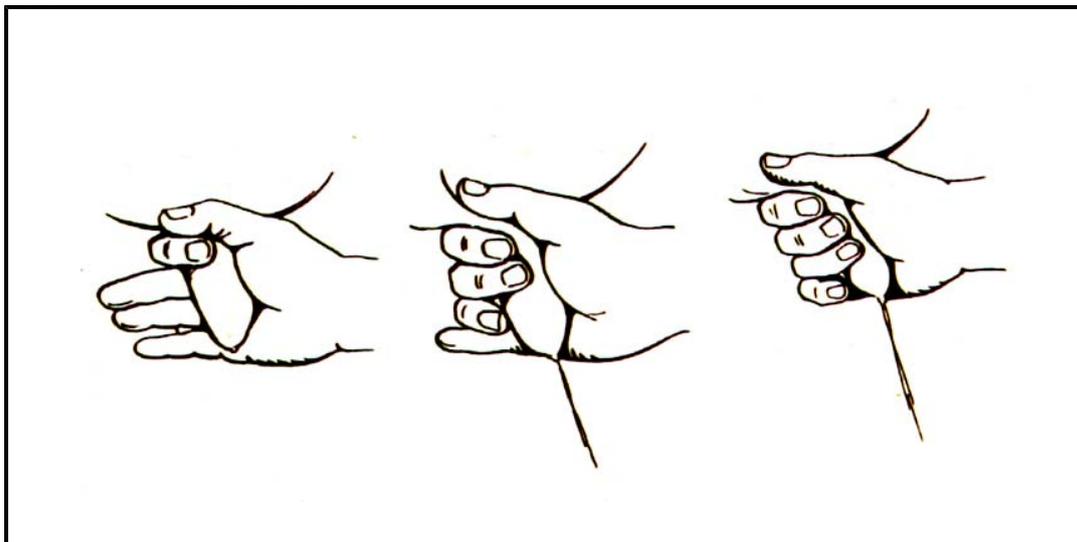
乳量の多い個体に対しては追飼を行うとともに、乳量の少ない個体に対しては飼料を与えすぎて過肥にさせないように注意する必要があります。

(2) 搾乳方法

① 手搾り

少頭数の搾乳の場合は、手搾りの方が個々の山羊の乳房の状態を把握できるとともに、経験者による搾乳は山羊及び山羊の乳房にとっても優しい方法とも言えます。

【手搾りの方法】 原図「RAISING MILK GOATS THE MODERN WAY」



乳汁が逆流しないよう先ず親指と人差し指で乳頭の付け根をしっかり挟み、残りの中指、薬指、人差し指と手の平で乳頭を締め付けて乳を搾り出す。手の力を抜いて乳頭の付け根をゆるめ、乳を乳頭内に入れる。

(以下繰り返し)

【注1】適正な搾乳ができていないかの確認(練習)方法

ゴム手袋に水を入れて、手首部分を縛り、指を乳頭と見立てて練習してみてください。

搾る動作をした時に指先が風船のように膨らめば大丈夫ですが、逆流している場合は、実際に搾乳した場合には乳房炎を引き起こす搾り方と言えます。

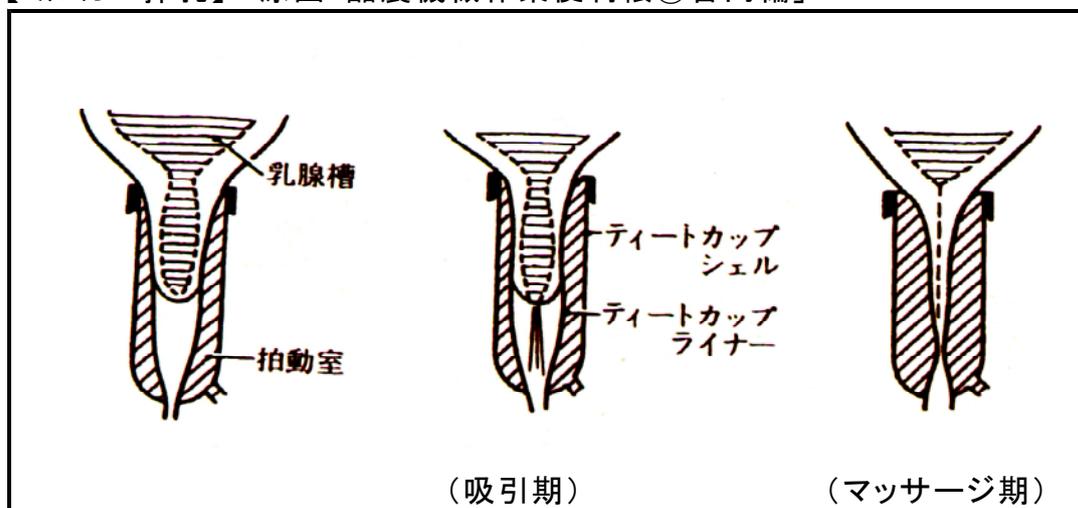
【注2】搾乳の仕上げ

搾り終わりに際し、乳房を雑巾のようにきつくしごきすぎると炎症を起こし乳房炎の原因ともなりますので注意して下さい。

②機械搾乳

搾乳頭数の多い群飼育の場合には、手搾りでは搾り切れませんのでミルクカーによる搾乳を行う必要があります。

【ミルクカー搾乳】 原図「酪農機械作業便利帳①舎内編」



ライナーの広がりに伴い乳が乳頭に下りる

ライナーの外側が内側と同様に陰圧になると乳が吸い出される

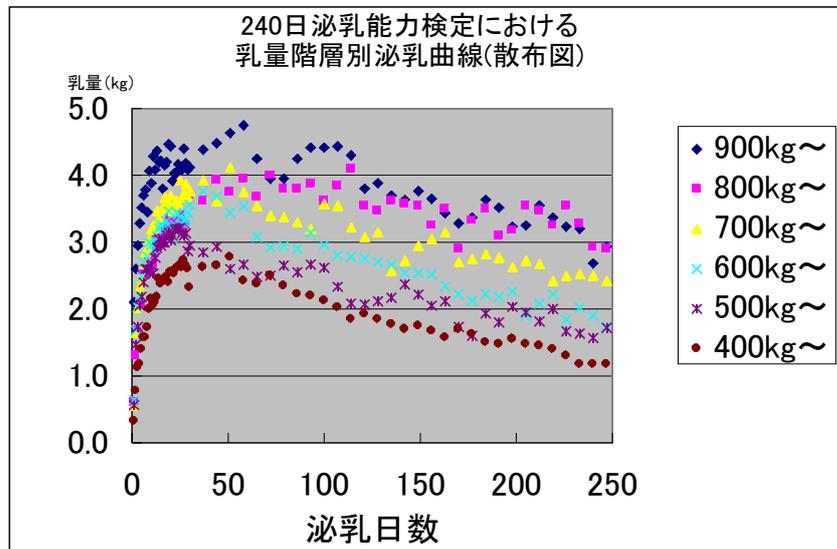
ライナーの外側が常圧になるとライナーゴムはライナー内側が陰圧のためつぶれて乳頭を包み乳は止まる

○搾乳衛生については、6. 衛生(3)乳房炎の項を参照

(3) 泌乳量

(社)日本綿羊協会の「山羊泌乳能力検定規程」によると多回検定では240日検定、2

70日検定、300日検定、365日検定の4種類となっており、各々の期間において600kg以上、650kg以上、700kg以上、800kg以上のものが高等登録の資格があるとされています。



【当才種付けにおける乳量】

当才種付け（2～4月生まれの子山羊に9～11月に交配する）を行った場合には、初産次の泌乳量は一般的に低く、240日乳量で350～400kg以上の泌乳量があれば十分で、この乳量があればほとんどの個体は第2産次以降に600kg以上を確保できます。

産次別乳量（当歳種付けによる初産泌乳量を100とした指数）
長野支場において5産以上した69頭のデータ

産次	泌乳量(指数)	例数
2	136.5 ± 28.7	69
3	147.3 ± 36.1	69
4	145.5 ± 39.4	69
5	142.3 ± 40.7	69
6	136.7 ± 42.7	36
7	134.8 ± 44.2	20
8	130.2 ± 41.5	11
9	102.1 ± 13.8	2

【季節外繁殖による乳量】

季節外繁殖させた場合の泌乳の特徴として、本来泌乳量の下がる時期に放牧等により牧草を食べ始めることで、乳量が持ち直すということがあります。

【搾乳回数】

1日における搾乳回数が増えれば多いほど乳量は増加します（若い個体の方が増加割合が高い）。一般に1日3回搾乳する場合に比べて1日2回搾乳した場合には乳量が

5～15%程度減少すると言われています。

【2年間搾乳】

受胎しなかった場合に、乾乳を行わず搾乳を継続することも一つの方法です。これにより2年間搾乳を行うことも可能で、2年目の乳量は、牧草の豊富な春先から上昇しますが、総乳量は1年目の乳量の50～70%程度となります。

(4) 乾乳

乳量が0.5kg以下になった場合又は泌乳期間が300日以上になった場合、遅くとも分娩予定日の60日前までには乾乳を行うべきです。乾乳により、体や乳腺細胞を休養・回復させることができるとともに胎児の発育に必要な栄養分の蓄積が図られます。

【乾乳の手順】

- ・乳房炎になっていないことの確認。
- ・搾乳間隔の延長(給飼・給水の停止により一気に搾乳停止することも可能です)
- ・搾乳停止
- ・乾乳用乳房炎軟膏(抗生物質製剤)を1乳頭に半量注入する。
- ・濃厚飼料及び多汁質の飼料の給与を中止し、良質の乾草のみの給与に切り替える

4 栄養

(1) 飼料

【基本的考え方】

○濃厚飼料

一般の乳牛用の配合飼料の他、農作物残渣や食品加工粕(塩分、脂肪分含量に注意)でも問題ありません。

○粗飼料

山羊は反芻動物であるため粗飼料を十分に与える必要があり、これを怠ると乳脂肪率の低下を招くとともに食滞等の消化器系の疾病を引き起こしやすくなります。

牧草ではクローバー等のマメ科牧草を多給すると鼓脹症になりやすいので注意を要します。

また、硝酸体窒素の含有量の多い飼料を食べると山羊は中毒を起こし、ひどい場合は死亡することもあります。家畜糞尿(窒素肥料)を多給して生産した粗飼料には高濃度の硝酸態窒素が含まれていますので注意して下さい。

○飼料を変える場合には嗜好性等を確認の上、従来の飼料と混合し、徐々に変えていくべきです。(鼓脹症等を起こす可能性があります。)

○鈣塩、ミネラル

乳中には多量のカルシウム、リン等のミネラルが含まれているため、補給できるよう飼料へ混合するか、自由に鈣塩等として摂取できるようにしておく必要があります。